縄文時代後期のムラ

井口遺跡

２０１０年２月

富山県埋蔵文化財センター

富山県

目　次

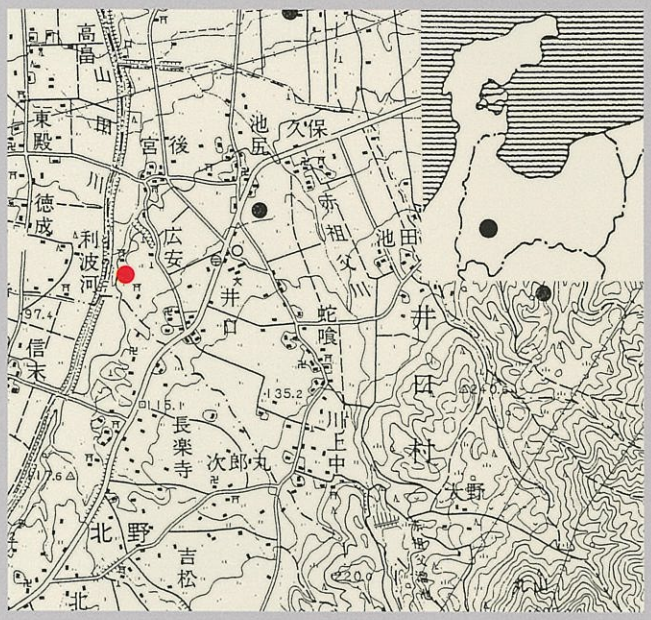
縄文時代後期のムラ　井口遺跡……3
竪穴住居……4
環状（木）柱穴列（ウッドサークル）…5
大量に見つかった土器……6
縄文時代後期の土器（井口式土器）……6
いろいろな形の土器……6
いろいろな文様の土器……7
縄文時代晩期の土器……7
縄文時代後期の土器……8
縄文時代晩期の土器……12

井口式土器 1

井口式土器 2

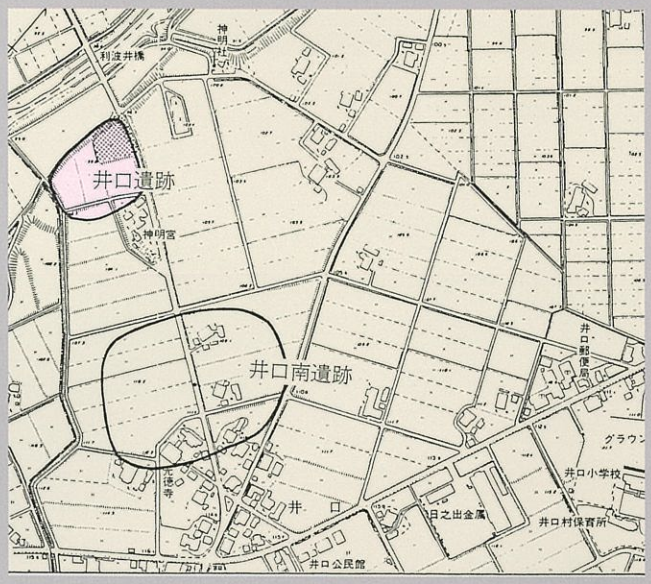
縄文時代後期のムラ　井口遺跡

井口遺跡は、南砺市（旧井口村）井口の標高97～110mの段丘先端に位置します。昭和53年と昭和54年にほ場整備事業と農道整備事業に先がけて約3,000㎡の記録保存の発掘調査が実施されました。その結果、縄文時代後期後葉（約3,500年前）、晩期中葉（約3,000年前）、が複合する集落遺跡と確認されました。中でも注目されたのは谷の中の土器捨場（土器だまり）から大量に縄文時代後期後葉の基準資料とされる井口式土器が見つかったことでした。また、縄文後期の集落は、台地先端部の中央部に広場を設けて作られ、竪穴住居19棟、土坑20か所以上があったと考えられます。



遺跡の位置

試掘調査の作業の風景



地形図　網の部分は発掘調査区

遺跡遠景（昭和53年ころ南西から）

竪穴住居（たてあなじゅうきょ）

段丘の上は、後世に行われた水田整備などのために旧地形が削平されていました。そのため遺物包含層や遺構の上の部分はありませんでした。竪穴住居や土坑（作業用や貯蔵用の穴）などは表土のすぐ下にある地山と呼ばれる黄褐色粘質土層の上面から見つかりました。遺構の多くは直径約20cmの穴でしたが、調査部分の中央付近から、石組みの炉跡が見つかりました。このことから見つかった約700か所の穴の一部が柱穴と考え、並んでいる様子から約19棟の住居を推定し、当時の集落の様子を復元することができました。

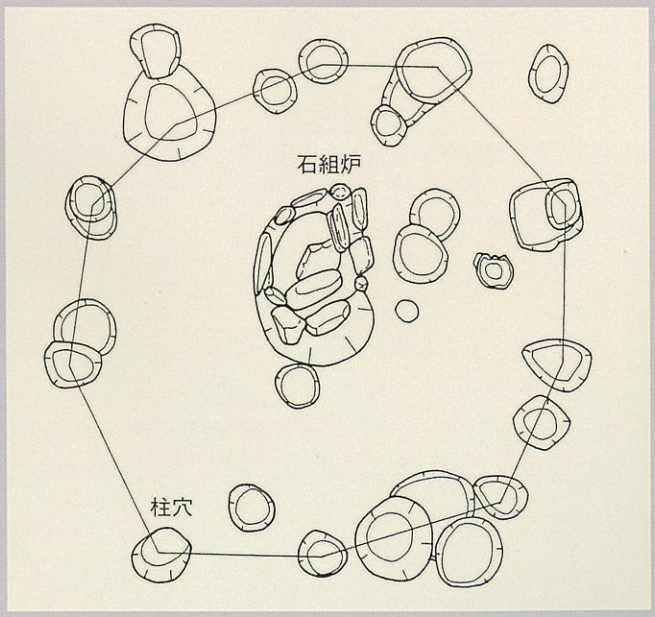
遺構の発掘作業

第２土器だまり作業状況

７号竪穴住居　南東から

近景西から

７号竪穴住居石組み炉



７号竪穴住居平面図（１:60）

環状(木)柱穴列（ウッドサークル）

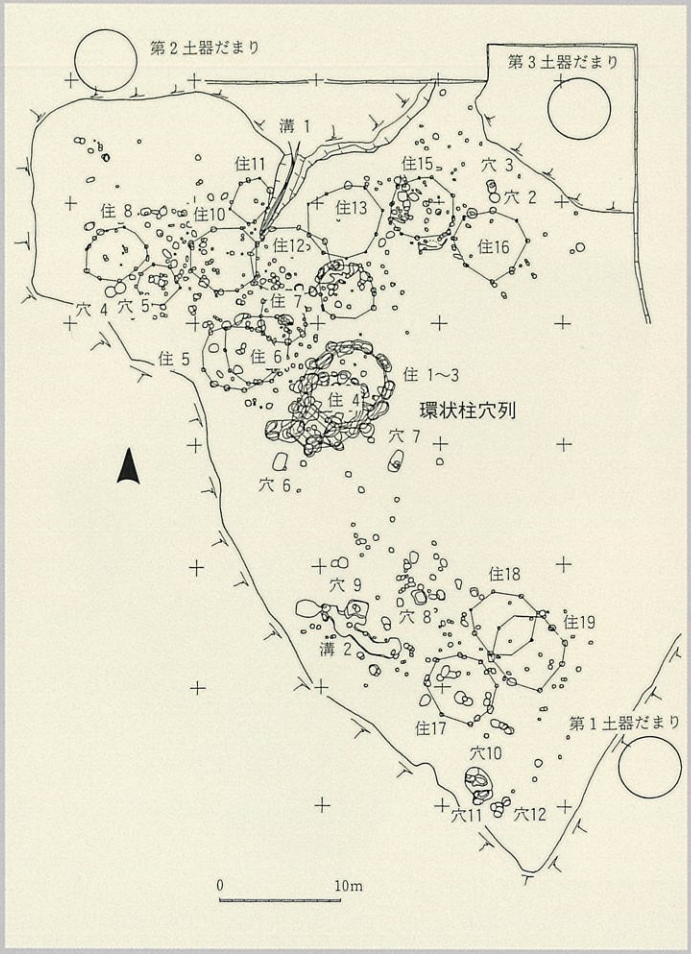
段丘の中央部に直径約80cmの大きな柱穴が約８ｍの円形に並び一か所が張り出した建物跡が４棟重なって見つかりました。この建物は環状木柱列と呼ばれる建物です。北陸の縄文晩期中葉の遺跡で大型の柱穴群が見つかることは以前からありましたが、石川県金沢市新保本町チカモリ遺跡の発掘調査では、大型で一方向が飛び出した柄鏡状に木柱が巡る遺構が初めて見つかり環状木柱列（ウッドサークル）と名づけられました。その柱根の直径は約70cmもある栗材（樹齢約200年）で、三日月状に割られた特別な形をしていました。また、北陸地方を中心として見つかることから巨木を利用した特別な儀式などがあったのではないかと考えられ、それを象徴するのが環状木柱列とされました。また、柱は正円を正確に８分割した線上に配置されていたことから縄文時代の人達の設計技術の高さがわかるとして注目されました。

環状柱穴列（ウッドサークル）東から

第３土器だまり谷部　東から

溝ＳＤ01遺物出土状況

遺跡南西部の遺構　北から



遺跡全体図

大量に見つかった土器

縄文時代後期の土器（井口式土器）

井口遺跡出土の土器は、昭和37年の水田整備工事の際に崖斜面（第１土器だまり）から見つかり、井口小学校に保管され、北陸の縄文時代後期後半の井口式土器の基準資料とされていました。特徴は、口縁部や胴部に凹線文（幅広沈線）を巡らせ、巻貝を押し当てて区切る文様を特徴としています。西日本の強い影響を受けて生まれた土器群で宮滝式や元住吉山２式と同じ時代と評価されています。昭和53年の試掘調査で北西側の斜面から新たな土器だまり（第２土器だまり）と昭和54年の本調査で北東側の谷から第３土器だまり（直径約８ｍ）が見つかり、資料が充実しました。

波状深鉢

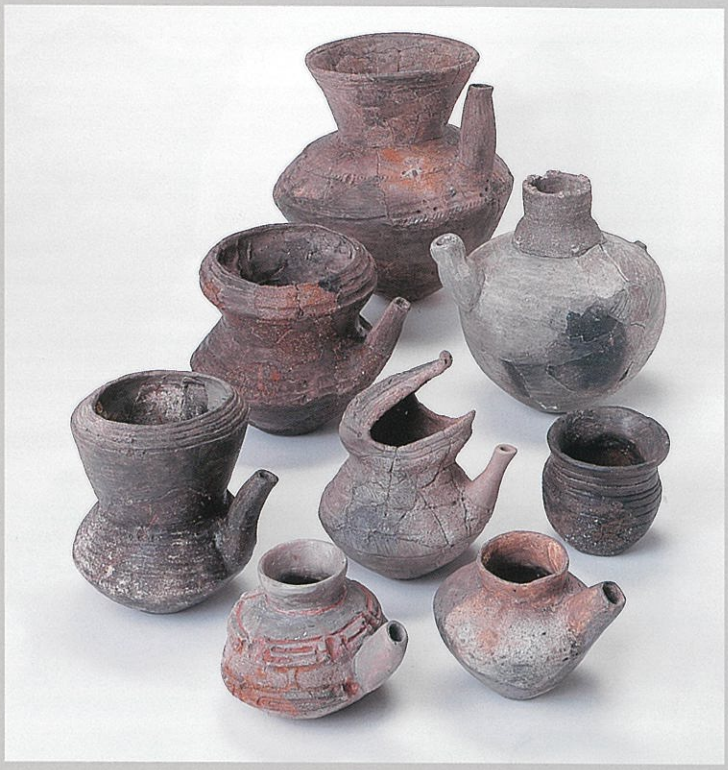
いろいろな形の土器

土器には、深鉢（煮炊きに使う）、浅鉢（盛り付けに使う）、注口土器（水などを注ぐ）があります。深鉢は、波状口縁や平口縁があり、口縁端部が「く」状に折れるものとそのまま直線的に開くものがあります。文様は２～３条の凹線や沈線を口縁部・胴部のくびれ部に巡らせて縦沈線や巻貝を押し当てて区切ります。また、縄文やキザミを施すものが見られます。波頂部の文様が特徴的です。浅鉢は、皿状に開く、くの字に口縁部が折れる、碗状などの形があります。文様はシンプルで沈線・凹線が施されます。また、少し古い例では羽状縄文が付けられたものがあります。注口土器は、注ぎ口の付けられた土器です。稀に15（11Ｐ）のように動物（イノシシ）や人を模った文様がつけられる例があります。

深　鉢

いろいろな文様の土器

北陸に広くみられる井口式土器は西日本の宮滝式の影響で凹線文と呼ばれる幅広沈線とそれを縦に区切る巻貝の押圧文が付けられるのが一般的です。また、口縁部に粘土紐を縦に貼付け、縦沈線文を施す東海地方の影響の深鉢１や東北地方に見られる瘤付土器の影響を受けた注口土器67などが見られます。また、イノシシ文様の注口土器は帯状の縄文に円形の押圧文を付けることから西日本の元住山式土器の特徴を持っています。井口１式では、東日本の加曾利Ｂ式の羽状縄文、西日本の元住吉山式の貝殻疑縄文を用いています。西日本では無文、条痕文の施文が一般的になりますが、北陸は地文に縄文を多く使います。

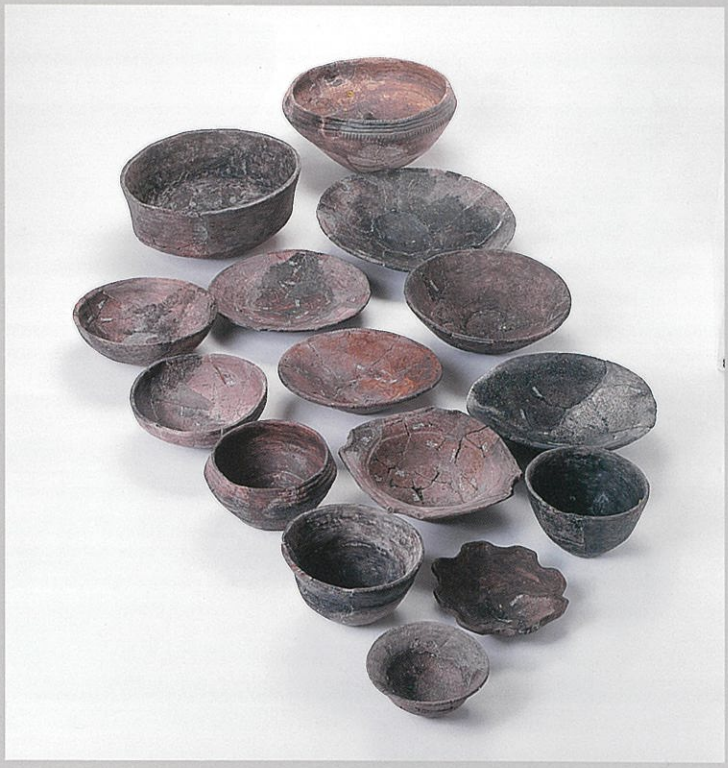


注口土器

縄文時代晩期の土器（12P）

外面に西日本からの影響でもたらされた条痕を施した粗文の深鉢土器が特徴的です。文様は、押し引き列点文や「Ｓ」字状･「楕円」工字文が施されます。また、東北地方の亀ヶ岡式土器の影響を受けた文様のある鉢や壺などは、縄文を使うのが一般的です。また、最近の研究成果では、縄文晩期中葉に北九州で稲作が始まったと考えられています。

その他の遺物としては、土偶や植物の種のようなものが入った土器、漆がついた土器があります。石器は、木を切るための磨製石斧、土を掘るための打製石斧、木の実をすり潰すための石皿･すり石、狩猟用の石鏃などがあります。また、食料にした動物の焼骨が見つかっています。



浅　鉢

縄文時代後期井口式土器

波状深鉢

深鉢

縄文時代後期井口式土器

57

58

59

深鉢

91

92

93

94

95

211

262

264

277

縄文時代後期井口式土器

8

9

10

浅鉢

13

62

63

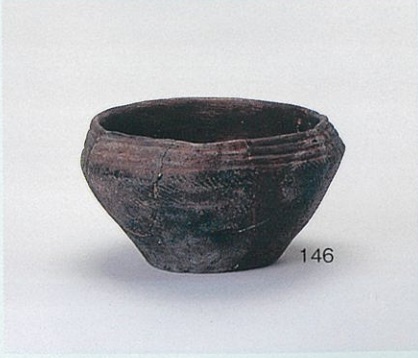
64

96

97

98

99


146

156

274

278

縄文時代後期井口式土器

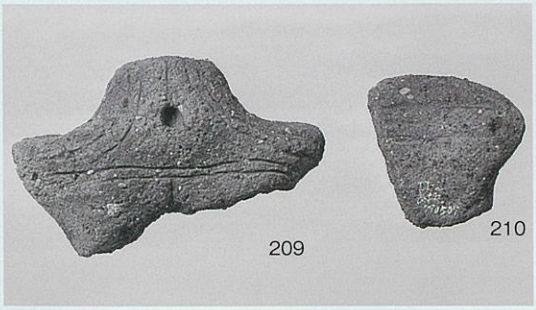
浅鉢

小型土器

注口土器

縄文時代晩期の土器

深鉢



土偶

縄文時代晩期の土器（下野式土器）

縄文時代後期のムラ　**井口遺跡**

発　行　日　　平成22年（2010）2月19日

編集・発行　　富山県埋蔵文化財センター

〒930－0115
富山市茶屋町206番3号
TEL　076－434－2814
FAX　076－434－2859

印　　刷　　北日本印刷株式会社

このパンフレットは埋蔵文化財保存活用整備事業の国庫補助金をうけて作成しました。